

2024年フクシマ連帯キャラバン参加報告書

全港湾東北地本小名浜支部青年部副部長 小宅 優輝

キャラバンに参加して私自身初めてのキャラバン参加ということと、フィールドワークの講師という立場で緊張感もありつつ自分のスキルを高められるいい機会を頂いたなど感じています。フィールドワークの講師をやるにあたって人に伝えるということ
で自分自身の知識も増やせ、勉強ができたいい活動でした。また改めて自分の目で被災地の現状を目の当たりにして、震災から13年経った現在でも表面上の復興だけで住民を呼び戻す、震災前の豊かな暮らしを取り戻すために最優先しなければならない復興が進んでいないと感じました。本当の復興にはまだまだ程遠いものでした。

今後の課題としては月日が経つにつれ「慣れさせない」ことだと思います。原発事故によって起きた事実を昔あった事故で終わらせない、1人1人が忘れない、忘れさせないようにするため、風化をさせないためにキャラバンを主体とした脱原発運動を今後も勢力的に行い、たくさんの人たちに伝えていくべきだと身をもって実感しました。